

古代の人もリサイクル？

ぐんま国際アカデミー中等部 1年 A組
赤井 絆蔵

昔の人もリサイクルをしていた!?

なぜこれについて調べようとしたのか



僕は埼玉県立さきたま史跡の博物館に行き色々な昔の土器などを見ていました。僕がその中でも目を引いたのは木簡でした！その木簡は仁寿元年前の貴重な文字資料で三ツ和遺跡から発見されたものです。もっと不思議なところはその木簡は当時井戸の補強材として発見されたのです！（下の図、当時の写真）

木簡とは文字などを書き出した気の札です。これは先ほども書いたように古代の貴重な文字資料なのです。この木簡は令和4年3月18日に埼玉県の有形文化財に指定されました。博物館学芸員の**中井 歩さん**の話によるとこの木簡は最初に井戸の補強材として発見されていて他にもこの木簡は火きり板としても使われ 曲物→木簡→火きり板→井戸の補強材と、木材がリサイクルされていることが分かるのです。

このことから、僕は環境のことやリサイクルについて興味がありこれについて調べてみようと思いました。

リサーチクエスチョン

「なぜ昔の人は木簡を再利用し、使っていたのだろう」

事実と解釈

いつ

仁寿元年(851年)ごろ

どこで

埼玉県川口市(三ツ和遺跡)

だれが

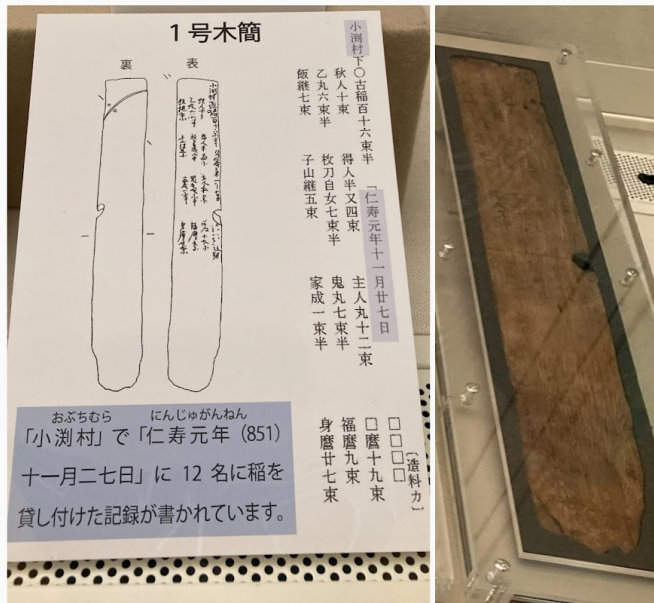
仁寿元年ごろの税を徴収する役人たちだと考えられる

なに

年号や稲の支給の実態などが記された木簡

どのように

曲物→木簡→火きり板→井戸の補強材と、木材が使われていた(リサイクルされていた)

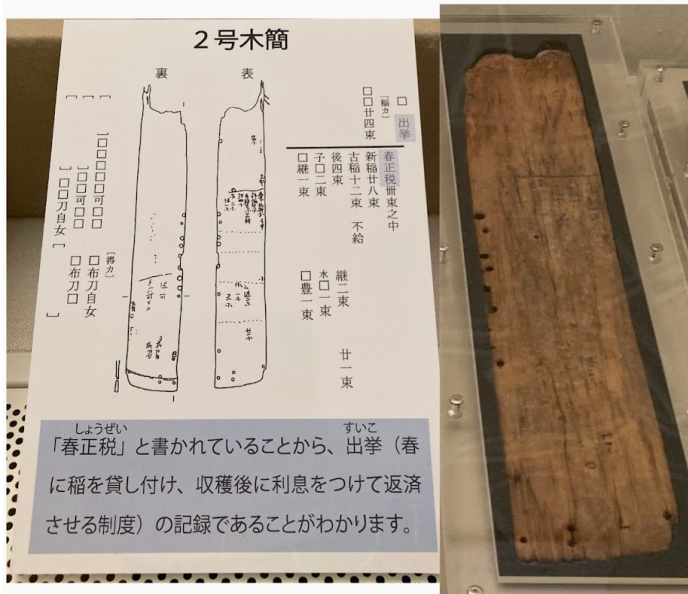


事実

- この木簡には、「小淵村（あぶちむら）」で、「仁寿元年（にんじゅがねん）（851）十一月二七日」に12名に稲を貸し付けた記録が書いてあります。
- これは木簡として使用しました。
- この木簡は火を起こすための火きり板としても使用されていました。（木簡の端には火きり板として使われたあとが残っている。）
- この木簡は、井戸の補強材としても使われていました。（発見した時に井戸の補強材として使われていた。）

解釈

- 昔は木が高価で、重要なものだった可能性がある。
- 昔の人は木の他に使える素材がなかった可能性がある。

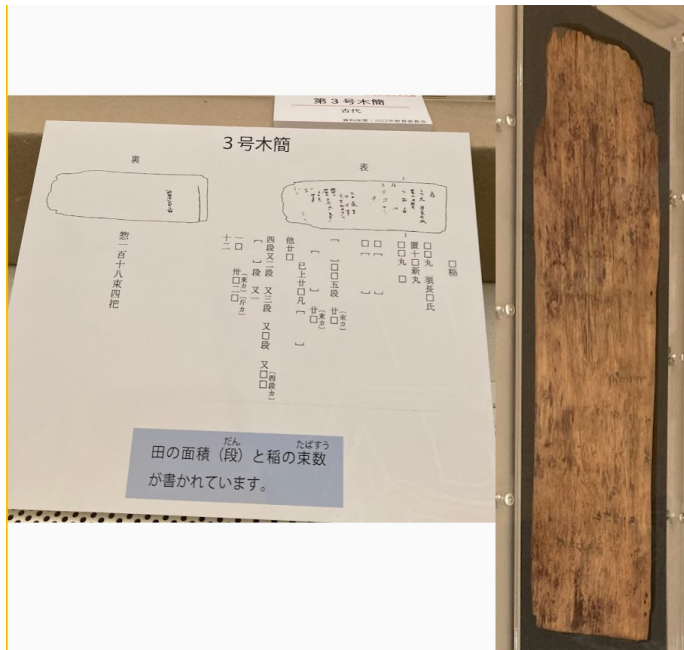


事実

- この木簡には、「春正税（しょうぜい）」と書かれていることから、出挙（春に稲を貸し付け、収穫後に利息を付けて返済させる制度）記録が書いてあります。
- これは木簡として使用しました。
- この木簡は火を起こすための火きり板としても使用されていました。（木簡の端には火きり板として使われたあとが残っている。）
- この木簡は、井戸の補強材としても使われていました。（発見した時に井戸の補強材として使われていた。）

解釈

- 昔は木が高価で、重要なものだった可能性がある。
- 昔の人は木の他に使える素材がなかった可能性がある。

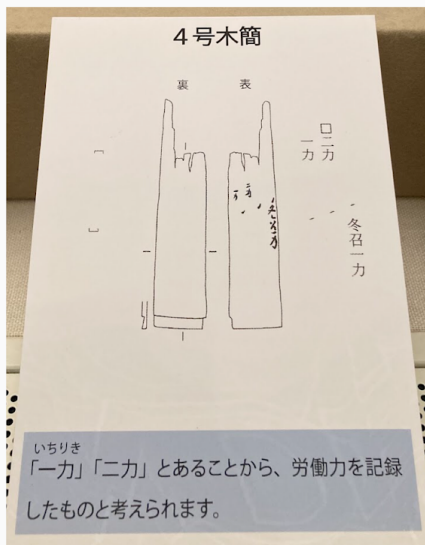


事実

- この木簡には、田の面積(段)と稲の束数がかかれています。
- これは木簡として使用しました。
- この木簡は、井戸の補強材としても使われていました。(発見した時に井戸の補強材として使われていた。)

解釈

- 昔は木が高価で、重要なものだった可能性がある。
- 昔の人は木の他に使える素材がなかった可能性がある。



事実

- これは木簡として使用しました。
- この木簡は、井戸の補強材としても使われていました。(発見した時に井戸の補強材として使われていた。)
- 木でできている。
- 他の木簡よりも、小さい

解釈

- この木簡は「一力」「二力」と書いてあることから、労働力を記録下ものだと考える
- 昔は木が高価で、重要なものだった可能性がある。
- 昔の人は木の他に使える素材がなかった可能性がある。

疑問

僕は木簡が何ども、リサイクルされていることについて調べるうちに、他の生活の中で使われたものもリサイクル(再利用)されているのではないかなと疑問に思ったのだ。

僕は埼玉県立さきたま史跡の博物館の職員さんに話を聞いてみると、「他にも土器やアクセサリーなどをリサイクル再利用していたことがあったのだ」と聞きました。

奈良文化財研究所の公式ウェブによると古代ではガラス子玉制作の原料となるガラス素材を生産する技術を持たなかったため、破損した輸入品を鋳型を使いリサイクルしていたと知ったのだ。昔の人々は色々なものを再利用していたのだとわかりました。このことにより、色々な場面で再利用（リサイクル）されているとわかりました。

結論

まず僕は昔の人は「リサイクル」という観念はないと推測しました。昔の人は今の鉄や、プラスチックなど曲げたり形を変えられる素材がなかったことや、生産する技術がなかったため、「木」という素材を捨てないで「使い続けるようにした」のだと思います。なので昔の人は木という色々なモノに役に立つ素材を、使い続けたのだと考える。

Reference

埼玉県立埼玉史跡の博物館 「令和4年さいたまの考古おひろめ展の地中からのメッセージ」制作（埼玉県立埼玉史跡の博物館）（令和4年7月）昔の人もリサイクル！？三ツ和遺跡（川口市）の記載された情報

埼玉県立埼玉史跡の博物館 「お話」（学芸員の中井歩さん）（2022/07/26）.このことから、木簡はこの時代には再利用（リサイクル）されていた可能性がある と述べている。

埼玉県立埼玉史跡の博物館（編）（2022）地中からのメッセージの展示会での、事実と解釈で使わせてもらった写真、情報

写真提供：川口市教育委員会（調査主体：川口市遺跡調査会）

奈良文化財研究所（2015年1月）古代のリサイクルー鋳型によるガラス子玉の生産
<https://www.nabunken.go.jp/nabunkenblog/2015/01/20150130.html/2022/08/07>

